

学生図書委員会 活動報告ほか

三年間の図書委員としての活動を通して

5I 倉橋 亮

三年という長い期間図書委員を務めていたこともあり、この原稿の執筆依頼を受けました。今年度で卒業となるので、図書委員最後の活動として、その締めくくりも兼ねて今までの活動内容を中心に書かせていただきます。

図書委員会は、基本的に月に一度の頻度で活動があることと、他の委員会の中でも多く予算が割り当てられていることが特徴です。月に一度、場合によってはそれ以上の頻度で活動があるので大変に思うかもしれませんが、その分私にとってはやりがいのある活動でした。

特にやりがいを感じたのは、図書委員一年目で、私が代表となって行った雑誌プロジェクトでした。このプロジェクトは、図書館に在庫が無かった女子学生向けの雑誌や、学生から人気を集めそうな雑誌を委員でいくらか選定し、そこから全校生徒対象のアンケートにより、図書館で定期購読する雑誌を決める活動でした。投票の結果、「CanCam」と「アニメディア」の2種類の雑誌に決まりました。どちらの雑誌もそれなりに読んでくれる人がいると聞くので、このプロジェクトは成功だったと感じています。

また、図書委員会で最も大きな活動といえば、年度に二回あるブックハンティングで、図書館に入れる本を選書することです。この活動では、クラスの希望調査と図書館の在庫確認のもと購入リストを作成します。そして、購入条件と予算の範囲内であるかを査定してから梅田にある「ジュンク堂書店 大阪本店」まで、リストにある本の購入に行きます。ブックハンティングでは、図書館に自分が入れてみたいと思った本を、条件と予算の範囲内であれば自由に入れることができたりするので、これは図書委員の特権だと思います。私のクラスの場合は毎回、希望がほとんど出なかったのも、予算ギリギリまで自分が入りたい本を中心に購入しました。その結果、今年度だけでも15冊近く図書館に入りました。ただ自分好みの本だけではなく、就職活動や資格試験対策であったらいいなと思った本、専門分野で後輩の役に立ちそうな本などを吟味して購入したので、それらの本がみなさんの役に立てればいいなと思っています。

図書委員としての三年間を振り返れば色々と思いつかぶのですが、ここに書く内容としては字数制限上、これぐらいにさせていただきます。

デザインとテクノロジーの調和

5I 田中 勇気

みなさん、こんにちは。今回は、ブックハンティングについてみなさんにお話にしようと思います。

図書委員の一員として、このような形で図書館だよりの執筆の機会をいただいたこと、非常に光栄に思います。

僕はこれまでに図書委員としてブックハンティングに4回参加させていただきましたが、大阪のジュンク堂書店の蔵書の豊富さには毎回圧倒させられてしまいます。

情報工学科に所属しているということもあり、リストに挙げられている本や自分の関心がある本には情報工学系統のものが多く、ジュンク堂ではまず専門書の方に足が向きます。

一口に情報工学と言っても様々な分野がありますが、前回のブックハンティングで興味深い本を発見したのでそれについて少し書こうと思います。

「アップルのデザイン戦略」——日経デザインから出版されている、Apple社の製品に関してデザインの視点から書かれている本です。

スマートフォンの先駆けとなったiPhoneはなぜ爆発的に売れたのか、iPhoneの何が人々を惹きつけるのか、この本ではApple社が製品のデザインにどれだけの労力をかけているかが豊富な図と共に分かりやすく説明されています。

この本を読んで分かったことですがApple社は製品の外観だけではなく、内部のネジ穴の角度や電子部品の配列などの、ユーザが普段見ることのない細部にまでデザインにこだわっています。

比較としてMicrosoft社のSurfaceが挙げられていましたが、Surfaceは加圧式の極薄キーボードやマグネシウム合金製の筐体など外観デザインには遜色ないものの、内部の基盤には無造作にシールが貼り付けられているなど見えない所にはあまり手がかけられていません。

内部に関してはユーザ側からしてみれば製品を分解することはほとんどないのであまり関係ありませんが、Apple社は外装の化粧箱やApple Storeの製品の陳列にまでデザインのこだわりを持っているようです。

他にもApple社が取得した特許から、これからiPhoneはどう変わっていくか、ウェアラブル端末として来年春に発売される予定のApple Watch（正式発表前に執筆されたものなので書籍ではiWatchと記述されている）はどのような製品になるかなどの予測が書かれており、非常に興味深い内容となっていました。

この本はもちろん、このシリーズの1つ前の「アップルのデザイン」という本も図書館にありますので興味のある方は一度読んでみてはいかがでしょうか。

最後になりましたが、年に2回行なわれるブックハンティングは新しい本に出会えるきっかけにもなるので、本に興味のある方は是非一度参加されることをお勧めします。



図書委員会計として活動して

41 川口 涼

4年生になってから1年間初めての委員会ですさらに初めての会計という役員として活動させてもらいました。図書委員としての活動で自分が体験したのはブックハンティングくらいでしたが他にも雑誌に関するものや読書週間など普段図書館を利用していても気付かなかった催しがいくつもあって新鮮でした。その中でもブックハンティングでは図書館の本を選んだり先生方が専門の本を選んでいたりするのを見られたりして普段はやらないような経験ができて楽しかったです。他にも図書委員の予算の多さや新しく入れる図書の却下理由など図書委員でなければ知れないようなことも知れて面白かったです。ブックハンティングではクラスでの希望が少なかったこともあり意外と自分の好きな本も選べたのでまた機会があれば参加してみたいです。

そして図書委員会計としても働かせてもらい、仕事自体は少なく負担は少ないものでしたが事務的な仕事だけで楽しくはなかったりとこちらも色々新鮮な体験ができました。ただ、初めての役員ということで全体の委員会の前に行く打ち合わせや領収証などの書類の扱いや書き方、事務手続きの煩雑さなど今まで触れなかったものに触れることができているいい経験になったと思います。これからいろいろな事務手続きが増えてきそうな自分にとってはこの一年で経験したことを生かして頑張っていきたいと思います。

今回は図書委員の最大のイベントであるともいえる（僕は最大のイベントだと思っている）、ブックハンティングについて皆さんにお話しようと思います。ブックハンティングとは、年に2回行われる図書委員会の活動です。これは高専の図書館に学生達が、学生達のために本を増やす絶好のチャンスでもあります。こういう参考書・文献が欲しいが、個人では高く買えない、また近くの書店で取り扱っていない、などといった場合にこのブックハンティングを活用してください。

このブックハンティングがどのように行われているかというと、まず事前に各クラスの図書委員が、クラスで希望図書を募集しまとめます。各クラスの図書委員は、この希望図書がすでに図書館にあるものではないか、また募集条件を満たしているか（漫画や雑誌などはブックハンティングでは取り扱わない）、などを調査します。そうして集まった希望図書は担当教員と図書委員で、予算内に収まるか、また図書館で貸し出すに相応しいものであるかなどを審査します。無事審査をクリアした希望図書は、図書委員が梅田にある大型の書店「ジュンク堂」まで購入しに行きます。

ブックハンティングでは、大型の書店に行くことができるのでとても楽しいです。僕は図書委員になって初めてそのような大型の書店に行くことができたので、新鮮な体験になりました。また、様々な本に囲まれ、目的の本を探し出す作業は本が好きの人にはたまらないでしょう。そして、希望図書を見つけ所定の位置に提出した時点で、図書委員としての活動は終わりなので、そのあとに自分の欲しい本をゆっくり探すこともできます。今までに見たことの無いような本に出会ういい機会です。このような素晴らしい経験ができるので、皆さんも是非図書委員として活動してみてください。

奈良高専図書館は一般の方も利用できます



奈良工業高等専門学校図書館は、本校教職員・学生のみではなく、教育・研究に支障のない範囲において、利用を希望される一般の皆様にも図書館資料の閲覧・貸出を行っています。

専門書だけでなく、小説や英語漫画、新聞や雑誌等もあります。

保護者や兄弟姉妹等ご家族の皆様はもちろん、他校のお友達や出身中学校での後輩の皆様にもぜひおすすめして下さい。

所蔵している図書館資料は本校図書館Webで自宅のパソコンやスマートフォン等で検索できます。

(URLは裏表紙下部をご覧ください)

